

チルする?

チル 中央Chill



札幌市立中央中学校

No.17

令和6年1月22日(月)

文責:黒川 陽介



リーディング DX 事業 熊本県実践視察報告

リーディング DX 事業の一環として、本校を代表して半澤先生、久根口先生、小野先生と自分で熊本県に1月9日～11日にかけて行ってきました。熊本市は、GIGA が全国的に始まる前から3人に1台端末を配布するなど先進的に実践をしていた自治体です。難しい感じのまとめは、職員会議の連絡事項にありますので、ここでは簡単にお伝えしたいと思います。

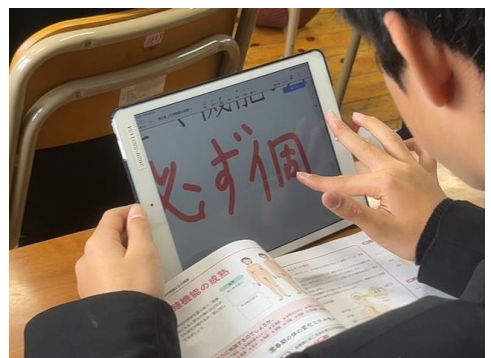
①熊本市教育センター

熊本市では「セルラーモデル」のiPad が一人一台支給されています。(セルラーモデルって、wi-fi なくてもネットつながる) 熊本がなぜそんなに ICT、情報活用能力の育成に力を入れているかというと、熊本地震がきっかけです。当時熊本市の ICT の活用状況は全国的にも最下位に近かったそうです。地震で子どもたちの学びが完全にストップしてしまったことや、復興を考える際に「100年後の未来を創る」教育に力を入れて「ICT なり AI の力を借りて、未来を創造する」力を身に付けるという視点が設定されたそうです。iPad を支給しただけでなくセンターの方から様々な研修を実施したり、センターの講師が学校に赴いて研修会を気軽に実施したりしているそうです。



②熊本市立藤園中学校

見ることができた授業は保健の授業でしたが、生徒は机の上にはほぼ筆記用具は置いていませんでした。iPad のアプリ (メタモジクラスルーム) でワークシートが配られて、生徒はそこに指やペン、キーボードで記入をするような授業でした。先生は iPad を見ながら生徒が入力しているかどうかを1画面で確認しながら、授業を進めていました。授業のスタイルもこのような方法が多いそうです。



③熊本市立北部中学校

テスト期間のため授業を見ることはできませんでした。(廊下から怒鳴り声が聞こえてくる学校でした笑...) 熊本でも屈指の ICT 実践校だそうです。社会科や家庭科の授業の実践や、情報活用能力の育成や Chat GPT の活用についてお話をしてもらいました。特に社会の授業実践は、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させるために、ICT の活用がうまくかみ合っていると感じました。

